

2023 年度 観菊会

11月10日の11時に新宿御苑の入口に集まり、坂巻様よりまず御苑の説明がありました。ここは内藤藩の屋敷があった場所で、内藤藩は家康より馬を走らせて回れるだけの土地をもらったとのこと。領地は渋谷方面まである広大な広さだったそうです。明治になって農学校が作られ、それは東大農学部の前身となったそうです。日本に最初に海外からもたらされた植物も多く、オリーブはここから小豆島に渡ったそうです。かなりの老木となった鈴懸の木も日本で最初にここに植えられ、ここから東京都の街路樹として広がっていったそうです。などなど御苑についての説明で始まりました。

菊花壇の見どころについて、「みなさんは菊の花ばかり見ているが、実は上家と菊と土を合わせて見てほしい」とのことでした。上家に使われている竹は今や中国から輸入しないと手に入らないとのこと。土は群馬県から運んでくるとのこと。皇室ゆかりの菊、将軍ゆかりの菊、武士の作った菊といろいろな菊があり、それは上家や土を合わせて見ることで品格が違うことがわかるそうです。なんと言っても圧巻なのは大作菊で今年は1本の茎から500個の花を咲かせていました。どうやってこんな菊を作るのかとか、いろいろな舞台裏の話をたくさん聞くことができました。あいにく小雨に見舞われてしまいましたが、かえって菊、上家、土が鮮やかに映えたように感じました。

鑑賞後、みんなで食事をしながらそこでも坂巻様の話を聞き、懇親を深めました。



説明者：坂巻（S42年）様
参加者：鬼頭（S42年）様
山本（S50年）様
舟橋（S55年）様
平澤（S55年）文責